

環流



第180号 令和4年3月18日

<目次>

生徒の活動：潮見台中学校……P1
 巻頭言：加藤 俊明校長……P1
 教育実践（小樽市学校体育研究会）・P2
 第12次研究 公開検証授業会……P3
 教育研究所情報：
 令和3年度教育研究所の歩み……P4



【子どもの心に響く道徳教育推進事業】↑
 車いすバスケットボール京谷和幸さんの講演

【オールイングリッシュの授業体験】↓
 小樽潮陵高校による出前授業（3年生）



今年度の教育活動を振り返って

小樽市立潮見台中学校長 加藤 俊明



潮見台中学校は今年度、『子どもたちに未来を生き抜く力を育む教育の推進』を重点目標にして教育活動を行ってきました。確かな学力や健やかな心身の育成はもちろん、道徳教育やキャリア教育、潮見台小学校との小中一貫教育にも取り組んできました。

道徳教育では道教委の「子どもの心に響く道徳推進授業」に応募し、車いすバスケットボールの京谷和幸さんを講師に招いて講演を行い、夢を持って行動を起こすことの大切さを学びました。

キャリア教育では関西外国語大学の中嶋洋一特任教授を講師としてオンライン授業を実施し、Society5.0時代でも「思いやり」「やりぬく力」「意欲」などが求められていて、何をするにも「何のために」を考えることにより、自分で納得して取り組むことが大切であるということ学びました。

小中一貫教育では潮見台小学校と連携して、『かかわり』『つながり』共に未来を切り拓く子どもを目指す子ども像として取組を進めてきました。コロナ禍のため、両校の教職員が一堂に会しての取組はできませんが、動画を使って小学校におけるボール投げ運動の指導を行ったり、授業参観や公開研究会に参加したり、オンラインによる児童会と生徒会の交流などを行ってきました。

変化の激しい時代を生きる生徒たちには、夢を持って行動を起こし、物事を自分事として捉え、未来を生き抜いていってほしいと教職員一同、願っています。

＜研究交流団体の実践紹介：小樽市学校体育研究会＞

(会長：小樽市立松ヶ枝中学校長 岡崎 利美)

「心豊かに学び、達成感を感じる体育活動の創造」 ～若手教員の育成と共に～

1 はじめに

昨年度3名、本年度2名市内中学校に体育科新規採用教員が着任した。大量退職時代の訪れを感じながら、小樽市学校体育研究会としても、これら若手教員の育成と共に本会研究主題「心豊かに学び、達成感を感じる体育活動の創造」を通じて体育が好きな子供の育成に当たりたいと考えている。

2 ミドルリーダーによる授業公開と座談会

ここ20年来、「小樽の体育関係は(中体連等も含む)いつも同じメンバーでやっている。」という閉塞感に近いものもあったと思う。そこに昨年度3名の新規採用教員が採用された。コロナ禍で横の繋がりを持つことが難しい中、小樽市学校体育研究会としても、豊富なベテラン・ミドルリーダーの経験を何とか繋いでいかなければならないと使命感を感じながら研究にあたることとした。

令和2年度は、菁園中学校本庄教諭にマット運動の授業を公開していただき、その後西陵中学校福田教諭、菁園中学校水口教諭をコーディネーターとして、授業実践上の課題を交流しながら経験豊富な参加者から様々なアドバイスをいただいた。

その後、嬉しいことに新採用の2名が自校研究授業に手を上げ公開してくれた。市内の感染状況が厳しい状況下では、You Tube で全会員に配信するなど、GIGA スクール構想の新たな可能性も学ばせてくれた。(授業内容は個々の成長の記録化を基にした言葉がけを行う温かいものであった。)

今年度も更に2名の新規採用者を迎え、昨年度に引き続き、若手教員の育成とともに、本会も研究を深めていくこととした。今年度は、事務局長である向陽中諸澤教頭が、若手教員に対し事前にアンケートを実施し、実践上の課題をあげてもらった。それを受け、授業者である、長橋中学校 宮崎教諭は、授業の評価ポイントを提示し、授業を参観しながらペアで評価するというワークショップを実施してくれた。(参加者14名) 参加した若手教員からは「授業者から、ティーチング(教える)とコーチング(導く)のバランスの重要性を学ぶことができ大変参考になった。毎年座談会を実施していただき親身な指導を財産として子供たちに還元したい。」「授業参観から、3年間の見通しをもち授業を組み立てるものの必要性を痛感しました。また、座談会では、経験豊富な先生方と疑問点や不安点についてのお話や、生徒への様々なアプローチの仕方を聞くことができとても勉強になりました。」などの声が寄せられた。



座談会の様子

3 終わりに

小樽市の子供たちの体力向上に向け、小樽市小中学校体力向上検討委員会に本会から多くの委員を推薦し、授業改善の提案を行ってきた。新体力テストの結果では、コロナ禍前には小学校5年生男子が初めて全国平均を上回るなどの成果を見ることができたが、長期間の休校や部活動中止を受け体力の低下が明らかになってきた。一方GIGA スクール構想が一気に進み、一人1台端末が整備され、子供たちは、自他の動きを動画で容易に確認したり、課題解決に向けた探究活動をしたりすることができるようになった。これらの機器を活用しながら、「体育が好きな子供たちの育成」という不易の課題の達成に向け小樽市教育研究会小・中体育部会とも連携し取り組んでいきたいと考えている。

第12次研究「公開検証授業会」を開催しました

今年度もコロナ禍にあつて、当研究所の第12次研究3年次目の計画を思うように進めることができずでしたが、Google meetを活用しながらできることを最大限やるという気概をもって研究を深めてまいりました。そして、2回の所内検証授業（潮見台小学校齋藤研究員：2年国語，潮見台中学校達崎研究員：2年数学）を経て1月25日（火）には手宮中央小学校において平口山立治研究員(T1)と瀧口由希教諭(T2)により「公開検証授業会」を2年ぶりに開催することができました。
本授業会の詳細については、研究紀要に掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

【平口山研究員の検証授業について（手宮中央小学校5年生：算数）】

- 1 単元名 5年生 算数「四角形や三角形の面積」
- 2 研究内容 深い学びの実現に向けた単元計画と学習過程の工夫による授業改善
(1) 単元の見通しと振り返り

研究内容1
単元計画の工夫

→ 単元を貫く活動を設定することで、児童の中に生まれる問いと振り返りが連鎖し、主体的に学ぶ姿を引き出すことができる。

①単元の見通し

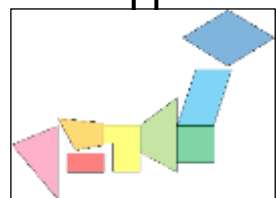
- ・単元の導入では、「単元のゴール」は何かを見通すことで単元末まで児童が意欲的に学べるのではないか。
- ・「日本地図の面積ランキングを予想する」という活動からスタートする。
- ・既習の形は面積を求めることができるが、未習の形はどうやったら面積を求められるか。これが単元を貫く課題となり、既習事項を基に「これは求められそう」と自ら見通しをもって取り組んでいく姿を引き出す。

②単元の振り返り

- ・単元の学習を振り返ることで、自分の成長を振り返ることができる。
- ・既習事項から未習の公式を見だし、児童自身が考えたことを算数的用語を使ってまとめる力を高める。

【単元のイメージ】

日本地図の面積ランキングを予想する



(2) 単元時間の見通しと振り返り

研究内容2
学習過程の工夫

→ 振り返りの視点を明確にすることで、児童自身で学びを広げたり深めたりする姿を引き出すことができる。

①前時の振り返りから単元時間の問題解決へ

- ・「前の時間までに学習したことは？」と、振り返る場面を設定することで問題解決の見通しをもたせ主体的に取り組む姿を引き出す。

- ②「なるほど!」「だったら…!？」視点を明確にした単元時間の振り返り
 - ・児童自身が「振り返り」を自ら思考の意流れに組み込んでいけるよう、「なるほど!」→**学習のポイント**・「だったら…!？」→**発展的な考え**という視点を明確にもてるようその場を設定した。

(3) 本時の主張について

本時は「図形の性質を基に既習の図形を捉え直す」資質・能力を育ていくための単元のまとめの時間として設定している。引き出したい見方・考え方は以下の2点としている。

- 台形以外の図形を「特別な台形」と捉え直すことで、それらの図形の面積を台形の面積の公式を用いて求めることができるという図形を統合する考え。
- 図形の「何が分かれば面積を求めることができるのか」を考えさせることで、「横と縦の長さ」が分かれば、面積を求めることができるという式を統合する考え。

このような見方・考え方を引き出し、児童が主体的に学びを深めていけるよう、次の3点を主張として授業を展開している。

- 空欄部のある式を提示することで、児童自らが問いを持ち共有!
- 「聞きたい!」「伝えたい!」を大切に交流場面の設定
- 適用問題として三角形を提示することで「なるほど!」「だったら…!？」を引き出す!

<本時の流れ>

- 「前時想起」
 - ・クイズ形式で求積公式を全員で確認
- 「問題提示」
 - ・ $(\square + \triangle) \times \text{高さ} \div 2$ の式で面積が求められる図形を選ぶ
- 「問いの発見」
 - ・台形の公式は他の図形にも使えるかな?
- 「見通し」
 - ・「どのような見方をすればよいか?」交流
- 「課題解決」
 - ・自力解決→小集団
- 「全体交流」
- 「まとめ」
 - ・長方形などを特別な台形として考えると、公式で求積できる
- 「振り返り」
 - ・適用問題として、三角形の面積を台形の公式を使って求める

様々な三角形や四角形についての求積方法を理解し「面積図鑑」としてまとめる

教育研究所情報

令和3年度教育研究所の主な活動の歩み

教職員研修の充実にかかわる内容

- 1 研究員による教育研究の推進
 - 研究員会議を中心とした研究活動
(令和3年6月～令和4年3月, 11回の開催)
 - 検証授業の実施
(3回～小学校国語・算数, 中学校数学)
 - 研究紀要第47号の発行 (3月末90部発行)
- 2 調査研究活動事業の推進
 - 研究推進校・推進団体 (6校・1団体)
 - 研究交流校・交流団体 (3校・6団体)
 - 公開研究会・公開授業の実施
(9校・3団体, 参加429名)
 - 教育講演会・講習会などの開催
(5校・1団体) <オンデマンドでの開催等を含む>
 - 市外公開研究会・実践発表会等への参加
(3校4団体, 参加13名) <オンデマンドでの参加も増えた>
 - 研修発表会の開催 (リモート)
 - 研究集録の発行 (3月末60部発行)
- 3 研修講座の開催
 - 公開検証授業会(R4.1.25) (参加28名)
- 4 所報「環流」の発行(6, 9, 12, 3月)各号100部程度作成(教職員へはデータ送信)
 - 第177号「今年度の研究課題, 初任者・研究員の紹介」他
 - 第178号「ICT支援員の活動について」他
 - 第179号「研究交流校の実践紹介: 望洋台小学校」他
 - 第180号「研究交流団体による実践紹介: 小樽市学校体育研究会」他
- 5 研究図書及び資料の収集と整備, 活用促進
 - 資料の収集
 - 研究図書の購入 81冊
 - 研究図書の貸出 71冊
 - 指導案データの作成, 発行
 - 教育研究資料目録第12集の作成, 発行

教育活動の充実にかかわる内容

- 1 学力検査の奨励
 - 標準学力調査
小学校3・5学年2教科 1,232名
中学校2学年3教科 663名
- 2 社会科副読本の活用の促進
 - 小学校社会副読本「わたしたちの小樽」及び『わたしたちの小樽』活用の手引き
令和2・3年度版を小学3年生に配付
- 3 理科教材の活用の促進
 - 新版小学校理科教材「おたるの自然」・「活用の手引き」の配付
- 4 ふるさと学習の促進
 - 「教材『小樽の歴史』」及び「活用の手引き」を小学5年生に配付
- 5 ICT支援員の活用
 - ICT支援 すべての小中学校 延べ78回
 - 情報モラル教室 15校 延べ37回41時間

教育相談の充実にかかわる内容

- 1 電話・来所・メール相談活動の実施
 - 相談件数 41件 46回
 - ・電話相談 39件 42回
 - ・来所相談 1件 1回
 - ・メール相談 1件 3回
- 2 スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置と学校への支援
 - 対応した学校 小学校9校, 中学校7校
 - 支援の対象となった児童生徒 25名
 - 家庭への訪問回数 8回
 - ケース会議の回数 5回
 - 研修会の参加
 - ・SSW連絡協議会
 - ・SSW活用事業地域別研修会
 - ・不登校対策連絡協議会

※上記の数値は令和4年2月末日現在を基本としています。

編集後記

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続き, 各学校・団体では, 様々な対策や工夫を講じながら研究活動や公開研究会などの取組を進めてくださいました。

本研究所においても, 「新しい研究様式」を模索しながら meet やビデオスイッチャーなどを活用し, 研究員や各学校・団体の協力により一定程度の成果を得ることができました。終息の見えない現在ではありますが, 今後とも小樽の子供の健やかな成長に向けてよろしく願いいたします。